



表紙の写真から

つなぐ・生保内節

新型コロナウイルス感染症の影響により2年連続で中止となった生保内節全国大会。県内の多くの民謡大会も行われていないこともあり、生保内節を耳にする機会も減っていました。そんな中、生保内節を盛り上げ、次回大会へつなげようと11月28日、仙北市民会館の自主事業として「つなぐ・生保内節」が開催されました。



歌声を披露する浅野沙樹さん。

生保内節が会場に響きわたる



加藤幸憲さん 富岡久美子さん 高橋真理香さん

新型コロナウイルス感染症の影響により2年連続で中止となった生保内節全国大会。県内の多くの民謡大会も行われていないこともあり、生保内節を耳にする機会も減っていました。そんな中、生保内節を盛り上げ、次回大会へつなげようと11月28日、仙北市民会館の自主事業として「つなぐ・生保内節」が開催されました。

この日は、歴代日本一の方々の中から浅野沙樹さん（第26回大会）、加藤幸憲さん（第27回大会）、富岡久美子さん（第29回大会）、高橋真理香さん（第32回大会）が出演。2部構成の舞台で4人の出演者は、生保内節のほか秋田船方節や本荘追分、秋田おばこ節など計16曲を披露し、およそ150人の観客の大きな拍手が会場に響きまわりました。



小学生から高校生までの子どもたちも普段の練習の成果を披露しました。



口を手で押さえて避難できました。

11月19日、ひのきないぐいども園で避難訓練が実施され、園児と職員が安全ですみややかな避難方法を確認しました。

想定は給食室からの出火。「火事です！」という声で始まった避難訓練に、園児たちは慌てることもなく先生の話をよく聞き園庭へ移動し、3分ほどで避難が完了しました。

その後、園舎にもどり人気アニメ「鬼滅の刃」の主人公・竈門炭治郎に扮した角館消防署西木分署の消防士が消防士となって、園児たちと一緒に避難に大切な「お（おさない）・は（はしらない）・し（しやべらない）・も（もどらない）」の約束をしました。

後半は体に無害な煙を使って煙道体験。先が見えないほどの煙の中を園児たちは口をおおいながら姿勢を低くして外へと避難しました。田村新さんは「煙が怖かった。本当にあったら低くして逃げたい」と火事の怖さを感じたようでした。



避難に大切な話を真剣に聞く園児たち。

ひのきないぐいども園で避難訓練

必殺技「お・は・し・も」

年末年始の新型コロナウイルス感染症対策について

仙北市新型コロナウイルス感染症対策本部より
(仙北市総務課内) ☎ 43-1111 / (仙北市総合防災課内) ☎ 43-1115

感染者数も沈静化の方向に向かっている中で、変異株の発生も報告されています。年末年始も控え、次のことに注意して、改めて感染症対策に取り組んでいただきますようお願いします。

- ❗ 県外との往来について**
 - ▶ 県外との往来は、できるだけワクチン接種（2回目接種から2週間程度経過）後に行うようお願いします。また、観光や娯楽（スポーツ観戦、コンサート鑑賞、レジャー施設の利用など）で県外と往来する際は、訪問施設などの感染対策を確認するなど、感染リスクに十分注意してください。
 - ▶ 県外からの訪問、帰省の際は、ワクチン接種または事前のPCR検査などを行うよう、家族・親戚の皆さんから適切なアドバイスをお願いします。
 - ▶ 往来に当たっては、訪問先や出発地の感染状況を踏まえて判断するとともに、不織布マスクの着用、手洗いなどの基本的な感染防止対策を徹底し、帰県後または来県後は2週間程度の健康観察（検温など）を行うようお願いします。
- ❗ 体調管理について**
 - ▶ 発熱や体のだるさ、味覚・嗅覚に異常を感じたら、無理に出勤や登校をせず、会食にも参加しないようにし、速やかにかかりつけ医や「あきた新型コロナ受診センター」に電話で相談するようお願いします。

あきた新型コロナ受診センター（コールセンター）
24時間受付 ☎ 018-866-7050
8時～17時（毎日） ☎ 018-895-9176
☎ 0570-011-567
- ❗ 会食について**
 - ▶ 飲食を伴う集まりは、屋内外にかかわらず、「長時間を避け」、なるべく「普段一緒にいる人」または「ワクチン接種を受けた人」と「マスク会食」を行うとともに、参加人数に応じた席の配置や換気の徹底など感染リスクの回避にご留意ください。
 - ▶ できるだけ仙北市内の飲食店を利用しましょう。



- ❗ 感染リスクが高まる5つの場面**
 - 場面1 飲酒を伴う懇親会など**
 - ▶ 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍くなり、大声になりやすい。
 - ▶ 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
 - ▶ 回し飲みや箸などの共用が感染リスクを高める。
 - 場面2 大人数や長時間におよぶ飲食**
 - ▶ 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
 - ▶ 大人数の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。
 - 場面3 マスクなしでの会話**
 - ▶ マスクなしに近距離で会話することで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
 - ▶ マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
 - ▶ 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。
 - 場面4 狭い空間での共同生活**
 - ▶ 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
 - ▶ 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。
 - 場面5 居場所の切り替わり**
 - ▶ 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が入り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まる可能性がある。
 - ▶ 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



その他、新型コロナウイルス感染症に関する対策情報が内閣官房特設サイトに掲載されていますので、ご確認ください。



強い粘りとコク

まぼろしの田沢ながいもまつり

11月27日、田沢地域で栽培される伝統野菜・田沢ながいもを販売する「まぼろしの田沢ながいもまつり」が市立田沢湖病院の駐車場で開催されました。仙北市商工会が生産者と地域産品活用推進委員会を立ち上げ、毎年販売会を行っています。販売したのは生産者の田中昭一さんと、田中勇幸さん。今年の生育状況について昭一さんは「量は昨年並み。今年は大雨や日照りの天候不順で土が固くなって、形が悪いものが多かった。その分頑張って成長したから粘り気があるのかもしれない」と話します。一方、昨年の半分の収穫量だったという勇幸さんは「毎年自分の家で種手を作って植えている。収穫量は安定しないが味が全然違う」と話しました。

用意した330本は110人ほどが買い求め、およそ1時間で完売。購入した地元的女性は岩手・青森のものも買って食べ比べをするといいます。田沢ながいものおいしさについて「粘りの強さが一番。コクがあって濃い」とのこと。どのようにして食べるのか何うと「シシタケの出汁を入れたとろろまんま（とろろかけご飯）を元日に食べます」と食べるまで待ち遠しそうな様子でした。



美味しいながいもを買い求めようとたくさんの方が訪れました。

ぜひご利用ください

松葉駅がリニューアル

11月16日、秋田内陸線松葉駅のリニューアル工事が完成しました。工事は「秋田内陸縦貫鉄道を守る会」が中心となり、駅愛護会や地元業者などによるボランティアで実施されました。来年度には、駅舎の壁面に新たなデザインが彩られる予定です。



秋田内陸線乗車の際はぜひご覧ください。

給食でサキホコレを提供

市内の児童たちが味わう



「いと話すのはお米が好きだという千葉校誠さん。「いつかいっぱい量が取れるようになって毎日給食に出るかも」と期待を寄せました。草薙爽華さんは「ふっくらして柔らかい。あんまりご飯は好きじゃないけどこれなら食べられる」と高評価のようでした。

サキホコレは、白さとツヤに優れた見た目、一粒ずつ感じられるふっくらとした食感、上品な香り、かむほどに広がる深い甘み特徴。児童たちは、普段提供されるあきたこまちとの違いを感じている様子でした。



1年生もサキホコレの美味しさに思わず笑みがこぼれます。

仙北市そばの会

県立聴覚支援学校高等部の生徒とそば打ち体験

11月17日、仙北市そばの会（荒木田俊一会長）の皆さんが講師を務め、県立聴覚支援学校高等部の生徒8人がそば打ちを体験しました。

同校は、鹿角市のストーンサークル見学や仙北市内の探訪、樺細工体験などを行う修学旅行中で、このそば打ち体験は体験学習の一つとして行ったものです。

当初は聴覚障がいの子どもたちとは手話が必要なのか、通訳の先生は何人いるのか、お互いの会話が通じるのかなどの心配をしていたという同会の皆さん。体験が始まると各テーブルから笑い声や拍手が起きるなど、元気で朗らかな子どもたちで安心したとのこと。手話で伝える先生たちも一緒にそば打ちを楽しみました。

そば打ち終了後にはみんなの問いかけに生徒たちは「うまいーうまいー」と言いながら、仙北市産のそば粉を使用した新そばを味わいました。

体験終了後には生徒代表から「最高に楽しんだそば打ちができた」「最高においしかった」「また仙北市を訪れたい」などの感想が述べられ、講師の皆さんは「体験を引き受けてよかった、よかった」と話していました。

玉川ダム竣工30周年記念シンポジウム

共に歩んだ30年地域の想いを未来へつなごう

11月20日、玉川ダム竣工30周年を記念したシンポジウムが、仙北市市民会館で開催されました。

このシンポジウムは、玉川ダムが完成して30年が経過し、建設に携わった方や多大なご協力をいただいた当時の玉川地域の方々の業績や貢献を後世に伝えるとともに、今後のダムの利活用を地域と共に考える機会として開催され、当日はダム関係者や関係自治体、玉川ダム移転者会の方々と合わせて約150人が参加しました。

第1部では、当時玉川ダム建設に携わった足立敏之参議院議員による基調講演。玉川ダム建設当時の様子や酸性水対策について講演いただいたきました。第2部では、玉川ダム移転者会の田中司さんをはじめとする4人のパネラーによるパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションでは、ダム完成前の玉川集落の様子を振り返り、今後の治水・利水を含めた効率的・効果的なダム管理について、玉川ダム・ダム湖を含めたダムの利活用について意見交換がなされました。



パネルディスカッションでは、笑いも含めた活発な意見交換が行われました。



ダムに関するパネルが展示され、訪れた参加者は興味深くご覧になっていました。



創作和太鼓柱組による和太鼓演奏オープニングセレモニーで大いに盛り上がりました。

子どもたちの笑顔のために！

児童虐待防止キャンペーン

11月は「児童虐待防止推進月間」でした。11月2日、タカヤナギワンダーモール店で、児童虐待防止PRキャンペーンを実施しました。今年も、秋田県の里親制度普及啓発活動とDV防止キャンペーンを合同開催し、里親支援専門相談員と市職員が、エコバッグやリーフレットを配布し、子どもの支援について呼びかけました。



店頭で子どもへの虐待防止を呼びかけました。

店頭で子どもへの虐待防止を呼びかけました。



みんな楽しんでそば打ちができました。

(百寿)

おめでとう ございます

加藤ユリさん

11月18日、加藤ユリさん(田沢湖田沢)が100歳の誕生日を迎えられ、特別養護老人ホームたざわこ清眺苑でお祝いが行われました。
当日は、仙北市からお祝いと花束が贈呈されました。

藤原剛さん

11月27日、藤原剛さん(角館町竹原町)が100歳の誕生日を迎えられ、娘さんの自宅でお祝いが行われました。
当日は、家族の皆さんが集まり、仙北市からお祝いと花束が贈呈されました。



田口市長(左)から剛さん(右)に手渡されました。

ともに輝く社会へ 認め合い広げよう 理解の輪

仙北市男女共同参画情報

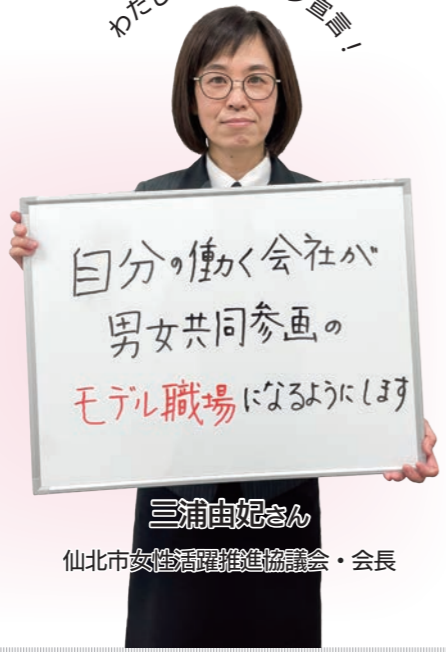
vol.2 仙北市女性活躍推進協議会とは？

仙北市では仙北市女性活躍推進協議会を設置し、女性の職業生活における活躍を推進し、男女の人権が尊重される社会の実現に取り組んでいます。

わたしのアクション宣言！

アクション宣言

固定的な男女の役割分担や過去の経緯から、男女の間に生じている差を解消するために自主的かつ積極的な取組を宣言いたします！



三浦由妃さん
仙北市女性活躍推進協議会・会長

問合せ
仙北市男女共同参画推進委員会事務局
(仙北市企画政策課内) ☎43-1112

次回予告▶▶第3回仙北市男女共同参画情報(1月16日予定)では、市内で男女共同参画の推進に取り組んでいる方のアクション宣言をご紹介します。

にしき園だより

— 第24号 —

にしき園は、高齢や病気で身体機能の衰えた方に日常的な医療やリハビリなどを行い、生活機能の維持向上・在宅復帰をめざす施設です

問 にしき園 ☎47-3211

天気予報には雪マークが並びはじめ、外の様子もすっかり冬景色に変わりました。
利用者の皆さまには少しでも季節のうつろいを感じていただきたく、職員と一緒にクリスマスリースを作りました。試行錯誤しながらも個性の光る、にしき園らしい作品ができあがり、満足そうな笑顔が見られました。
師走も半ばを過ぎ、今年も残りわずかです。冬将軍に負けないよう、皆さまも暖かくお過ごしください。



どこにつけようか迷います。



大きなリースが完成しました。

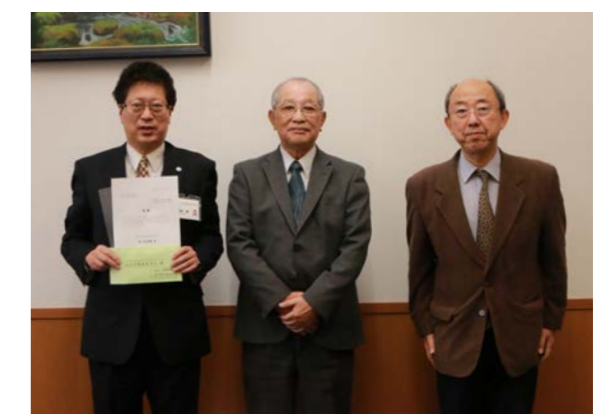
10月末	81人
11月入所	15人
11月退所	14人
11月末	82人
平均要介護度 2.79	

感染症予防のため、しばらくの間、ご面会はガラス越しに対応させていただきます。

介護員を募集しています。お気軽にお電話ください。



勉強に励む子どもたちのために 角館感恩講が仙北市に寄付



右から河原田事務長、加賀谷理事長、須田教育長。

11月18日、一般財団法人角館感恩講(加賀谷宏一理事長)から市教育委員会へ奨学金事業に役立ててほしいと10万円を寄付いただきました。
明治31年に設立された同法人は、福祉団体への助成や高齢者への乗り物割引券の交付、障がいのある子どもたちの支援を行う放課後等デイサービス事業所の運営など、地域福祉の向上を目指した事業を行っています。この度の奨学金事業への寄付は、昭和56年度より続けられています。
当日は「コロナ禍で教育環境が変化しているが、勉学に励む学生さんに役立ててほしい」と加賀谷理事長から須田教育長に寄付金が手渡されました。また、河原田次朗事務長に子どもたちへの願いをお伺いすると「ぜひ生まれた故郷に恩返しする大人になって、仙北市に暮らしてほしい」とのメッセージをいただきました。

地域に彩りを 愛仙・愛仙の華が 寄せ植えを設置・管理



角館庁舎の入口付近に設置していますので、ぜひご覧ください。

アップ作戦、内陸線の地元駅舎清掃、小学生との交流会など数多くの地域交流活動を実施しています。
寄せ植えは、角館庁舎のほか市内金融機関にも設置されています。花の少ないこの時期に、彩り豊かな寄せ植えをぜひご覧ください。

この度、社会福祉法人秋田ふくしハートネットが運営する指定障がい福祉サービス事業所・愛仙と愛仙の華の利用者が寄せ植えを作り、角館庁舎に設置、管理していただくことになりました。
同法人は、本来の福祉事業のみならず「地域と共に歩む」を理念に、日頃から夏祭り大花火大会やクリーン